

1 早産の病理学的研究

① 死産の比較における母体側異常，児異常所見及び死因等についての検索

広島大学原爆放射能医学研究所

遺伝学・優生学研究部門

岡本直正・佐藤幸男
日高惟登・秋本尚孝
宮原晋一

目 的

早産の原因を解明する目的で，今回は総論的な立場から奇形が晩期早産の誘因となり，また児の死因となることを示唆し，奇形予防に関連して妊娠初期の管理が大切であることを報告した。今回も同目的にて更に早産全体を各論的に分析した。

研究 方法

解析可能な5973例の剖検材料をもとに胎生病理的な見地から死産との比較検討を行い詳細な解析と考察を加えた。

結 果

母体側の異常所見では妊娠中毒，感染及び羊水過多が早，死産例の上3位に共通してみられるが，妊娠中毒と感染の2項に注目すると死産例では28.4%であるのに対し，早産例では5.2%と高頻度であった（Table. 1）。

児の死因については，早産例では未熟，感染及び分娩外傷が多く，死産例では低酸素症，奇形及び分娩外傷が多く，両者ともにこれら上3位で全体の70%を占めている（Table. 2）。

児の病的所見では，早，死産別に共通して出血が最も多くみられ，その細区分においても点状，天幕下，クモ膜下等とほぼ同様の所見を得た。

児の奇形については，心・大血管系から四肢骨格系に至るまで早，死産例双方に類似した頻度がみられた。しかし，死産例にみられなくて早産例で胸腺の過形成や低形成あるいは副腎の低形成が特異的にみられたのは着目すべき点である（Table. 3）。したがって，この問題を解明する系

口として重量の比較を行った。胸腺と副腎は本来ならば，早産児の場合出生後直ちに退縮を起すため死産児のそれより軽いのが普通であるが，胸腺においては早産例の胎令6，8ヶ月に高い値を示すものがみられ，また副腎では全体的に早産例の方が高い値を示した。

考 察

母体側からは早産例に妊娠中毒及び感染が高頻度に見られることから早産の原因となりやすいことが示唆され，臨床的に妊娠中毒症の早期発見・早期治療あるいは感染予防に対する関心を持つことが必要と思われる。

児の所見からは早産例と死産例とに大きな差異は認められなかったが，早産例に特異的にみられた胸腺及び副腎の重量変化に関する問題は無視できないばかりか，早産の成因の一つを解明する上で病理組織学的検索をはじめとして更なる研究が必要と思われる。

要 約

早産の原因解明のため胎生病理的な見地より母体側資料と児剖検材料をもとに分析を行い，今回は母体の妊娠中毒症の監視と感染予防の必要性，また早産児の胸腺及び副腎の詳細な検索の必要性を報告した。

Table.1 早産例と死産例にみられた母体側の異常

	早 産	死 産
妊 娠 中 毒	14 (28.0)	40 (17.2)
感 染	12 (24.0)	26 (11.2)
羊 水 過 多	7 (14.0)	30 (12.9)
心 不 全	6 (12.0)	1 (0.4)
腎 炎	3 (6.0)	6 (2.6)
早 期 破 水	2 (4.0)	20 (8.6)
性 器 出 血	1 (2.0)	15 (6.4)
転 倒 等	2 (2.0)	12 (5.1)
分 娩 位 異 常	0	12 (5.1)
そ の 他	3 (6.0)	71 (30.5)
計	50 (100%)	233 (100%)

Table.2 早産児と死産児の死因

	早 産	死 産
未 熟	93 (36.3)	47 (6.0)
感 染	54 (21.1)	33 (4.2)
分 娩 外 傷	33 (12.9)	113 (14.4)
奇 形	29 (11.3)	144 (18.3)
低 酸 素 症	19 (7.4)	163 (20.8)
不 明	0	190 (24.2)
そ の 他	28 (11.0)	95 (12.1)
計	256 (100%)	785 (100%)

Table. 3 早産児および死産児の奇形集計

	早 産	死 産
心・血管系	79 (35.5)	230 (44.1)
泌尿・生殖器	35 (15.8)	57 (11.0)
中枢・顔面	29 (13.1)	122 (23.5)
消化器	22 (9.9)	57 (11.0)
四肢骨格	22 (9.9)	54 (10.4)
胸腺低形成	8 (3.6)	0
過形成	7 (3.2)	0
副腎低形成	4 (1.8)	0
単一臍動脈	2 (0.9)	0
腹壁破裂	2 (0.9)	0
臍帯ヘルニア	2 (0.9)	0
そ の 他	10 (4.5)	0
計	222 (100%)	520 (100%)

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

目的

早産の原因を解明する目的で、前回は総論的な立場から奇形が晩期早産の誘因となり、また児の死因となることを示唆し、奇形予防に関連して妊娠初期の管理が大切であることを報告した。今回も同目的にて更に早産全体を各論的に分析した。